

A background image of a beach with many smooth, light-colored pebbles. In the center, a stack of three smooth, greyish-blue stones is balanced on top of each other. The sky is a pale, hazy blue.

20代前半女性が転入超過最多人口 東京一極集中の「理由」

(2020年 東北6県+新潟県 転出20代女性意識調査結果より)

2021年7月26日 第3回 「人生100年時代の結婚と家族に関する研究会」 提出資料
(株)ニッセイ基礎研究所 生活研究部 人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子

【人口の社会減と女性の定着に関する意識調査（2020年）】

【調査背景】

人口減少・高齢化が進む東北圏(東北6県および新潟県)は、女性人口の域外流出の面でも最も深刻な地域となっており、若い女性の定着・還流対策は喫緊の課題である。

これまで東北圏各地では、人口減少・少子化問題に対し様々な施策に取り組んできたが、若い女性が東京など域外に流出する問題を放置しては、真の地方創生実現は困難と考えられる。

【調査目的】

本調査では、東京圏に転出を希望している、または転出した若い女性の意識・考え方について情報収集・分析を行い、その傾向を探ることによって、従来の地方創生施策のあり方を見直す契機とする。

また、若い世代から「そこで働きたい」「そこに住みたい」と思われるような地域社会のあり方を探り、東北圏から若い女性が域外に流出する問題に対する示唆を得る。

【人口の社会減と女性の定着に関する意識調査検討委員会】

本調査では有識者によるオンライン検討委員会を組織され、アンケート結果の示唆・提言内容について意見提出が行われた

委員長

天野馨南子（株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部 人口動態シニアリサーチャー）

委員

内田 直仁（宮城大学 事業構想学群事業プランニング学類 大学院事業構想研究科 教授）

熊本 均（株式会社フィデア情報総研 執行役員 上席理事）

今野 彩子（株式会社ユーメディア 取締役 経営企画・ワークイノベーション・ブランド推進室）

新居日南恵（株式会社manma 代表取締役社長）

オブザーバー

小池 司朗（国立社会保障・人口問題研究所 人口構造研究部 部長）

小林 正明（一般社団法人東北経済連合会 専務理事）

事務局

公益財団法人東北活性化研究センター

楽天インサイト株式会社

【アンケート調査（定量調査）概要】

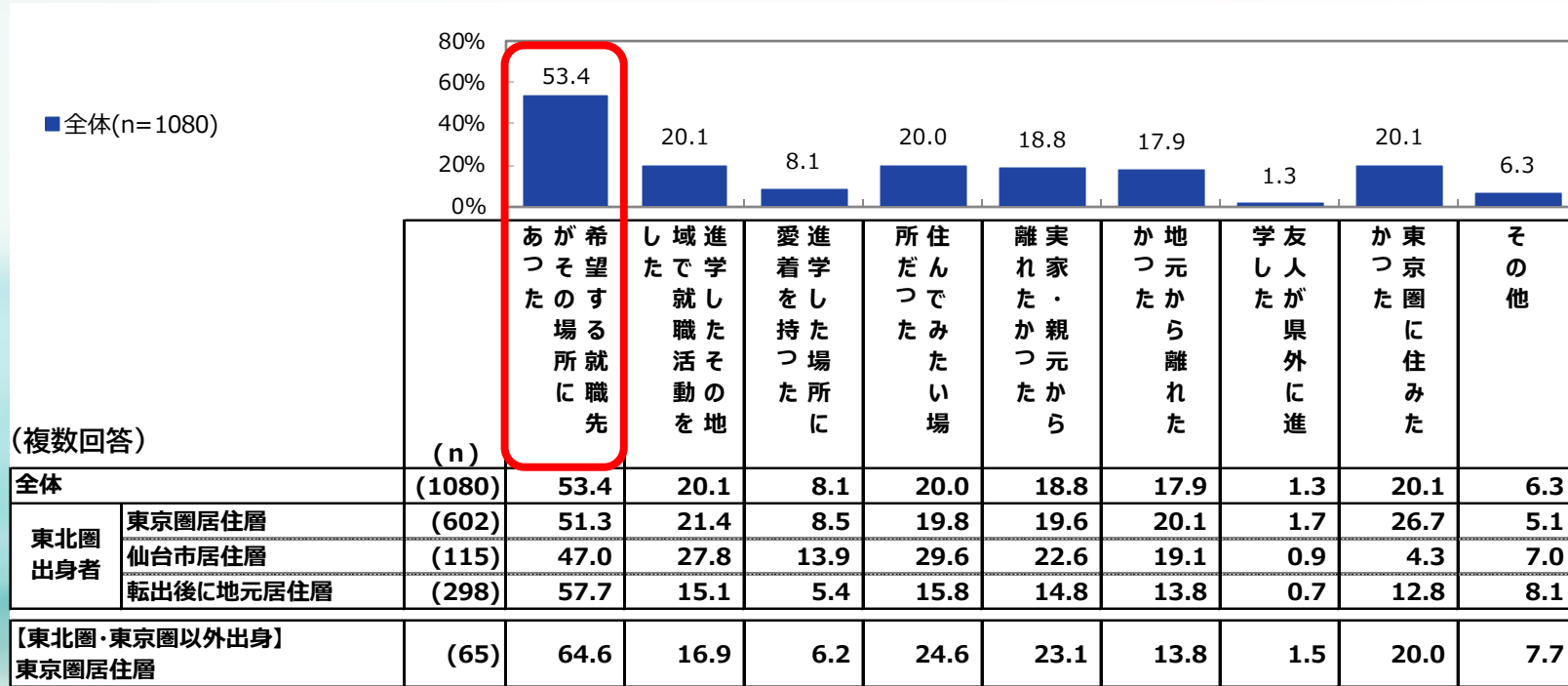


調査目的	東京圏に転出を希望している、または転出した若い女性の意識・考え方について情報収集・分析を行い、その傾向を探る。	
調査地域	全国	
調査手法	インターネット調査	
調査対象者	18歳～29歳の女性	
サンプル数	• 2,300人の内訳は、以下の通りである。	
	東京圏居住層	969人 現在、東京圏に居住している人(地元から転出後、東京圏に移動した人)
	仙台市居住層	203人 現在、仙台市に居住している人(地元から転出後、東京圏に移動した経験のある人を含む)
	転出後に地元居住層	424人 一時期、地元から転出した後、現在、地元に住居している人
	地元定着層	604人 地元以外の都道府県に転出した経験がなく、現在、地元に住居している人
	【東北圏・東京圏 以外出身】 東京圏居住層	100人 参考として、東北6県・新潟県・東京圏以外出身者で、現在、東京圏に住居している人
実施期間	2020年6月5日(金)～2020年6月15日(月)：初回収 2020年8月31日(月)～2020年9月24日(木)：追加回収	

【インタビュー調査 概要】

調査目的・手法		<ul style="list-style-type: none">● アンケート調査に回答した東北圏出身の若い女性に直接話を聞き、自身の体験を基にした率直な意見を伺うことで、定量調査だけではみえない意識や考え方への理解を深める。● 当事者である若い女性に直接東北圏の課題や問題点を問うことで、今後の施策の一助とする。● 定量調査で特色のある傾向がみられた回答結果において、回答理由や回答傾向に対する意見を伺うことで、定量調査の分析に際する補足の示唆を得る。● オンラインIDI（インディビジュアルデプスインタビュー）
対象者条件	共通条件	<ul style="list-style-type: none">● 定量調査アンケート回答者● 東北圏出身で、東京圏に転出した方● 現在東京都在住
	割付	アンケート回答者の構成比の高い「会社員（正社員）」と大学生で割り付け <ul style="list-style-type: none">・ 会社員（正社員）：6名・ 大学生：2名
人数		8名
インタビュー時間		1人あたり40分
インタビュー日程		2020年10月24日～25日、11月3日

1.東京圏に就職した理由

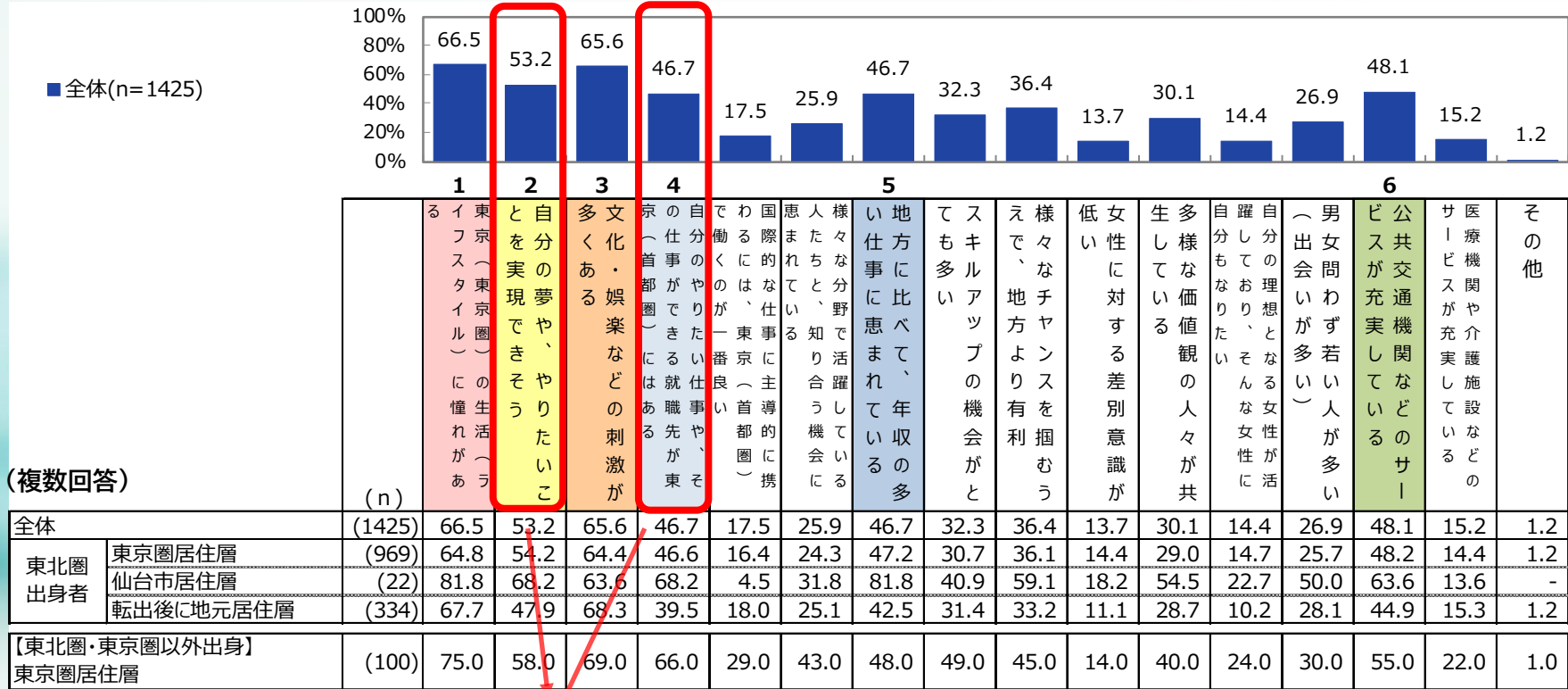


「希望する就職先があった」が半数超で他より圧倒的！

【インタビュー調査での回答】

- ・資格を必要とする専門職でも、特定の勤務先(特に子どもに関わる仕事)を新卒から求めると、地元では求人数が少なかった
- ・営業職を希望して地元でも就職活動を行ったが、地元には女性での募集がなく東京で就職した地元での就業を希望し、実際に地元で就職活動をした場合、希望する職種の女性枠が地元になければ、結果女性枠求人数の多い東京圏に就職する

2. 東京圏を選ぶ理由



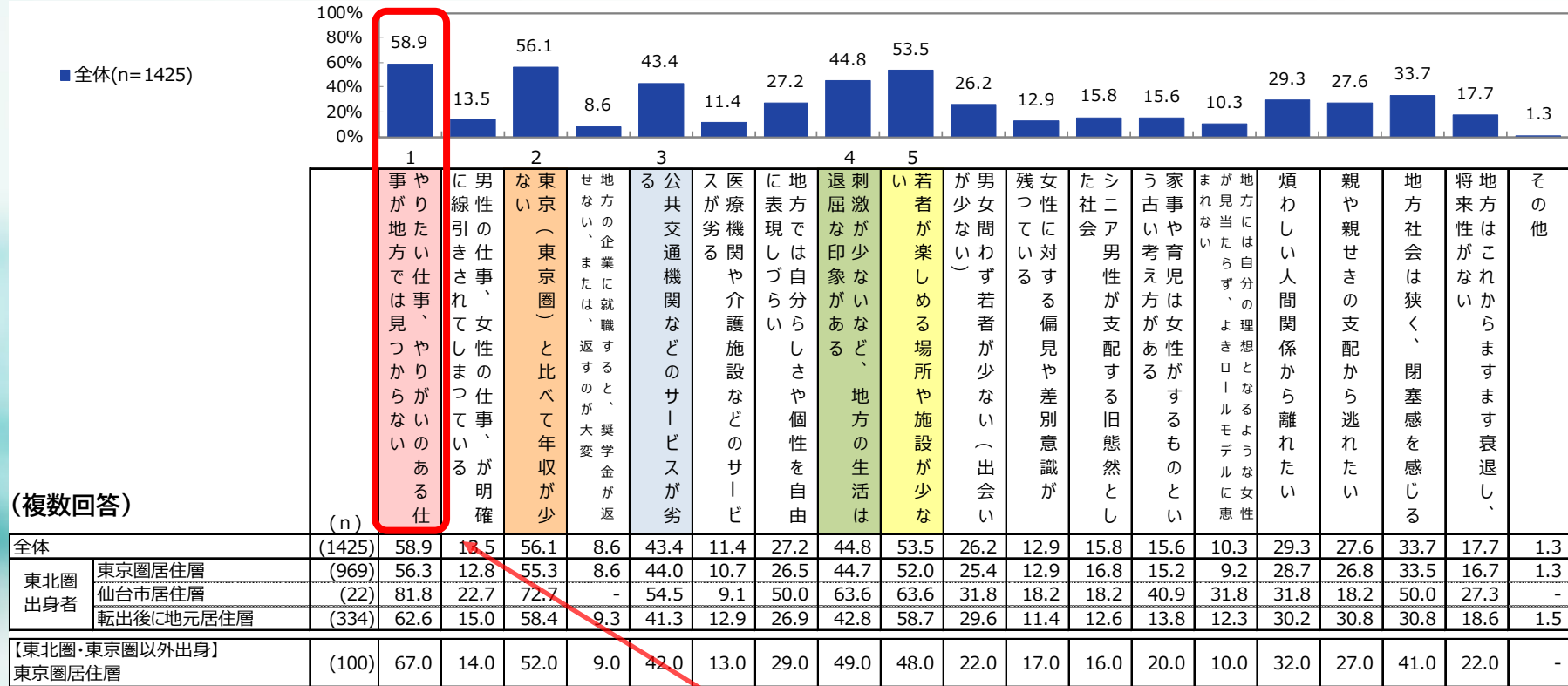
【インタビュー調査での順位付け】

	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8
共感度1	6	1	4	1	2	4	2	2
共感度2	4		2	3	4	2	1	4
共感度3	3		6	2	3	5	3	5

優先順位不明の定量アンケート票数に比べ
 「自分の夢や、やりたいことを実現できそう」
 「自分のやりたい仕事や、その仕事ができる就
 職先が東京にはある」
 が上位に出る傾向がインタビューで確認された

「夢や、やりたい仕事」の実現機会が数多くあるから！

3. 地方から転出する理由



【インタビュー調査での順位付け】

	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8
共感度1	1	2	1	5	1	1	1	1
共感度2	2	4	3	4	2	2	4	5
共感度3		5	2	1		3	5	2

一見 様々あるように見えるが…
1番の理由は
やりたい仕事
やりがいのある仕事がない！